

まこと

Volume 62 No.9
SEPTEMBER 2015



8月30日、天理文化センターで「天理教バザー」が開催されました。今年で45回を数える天理教バザーでは、30品以上の食品に加え、小物や古着、手作りの布団や枕なども並び、ハワイでは最大級のバザーとして知られています。会場に設置された巨大なテント内では、バンドやウクレレ演奏、餅つきも披露されました。

Tenrikyo Mission Headquarters of Hawaii

リレー巻頭言

明治25年1月13日のおさしづに、

理は見えねど、皆帳面につけてあるのも同じ事、月々々々余れば返やす、足らねば貰う。平均勘定はちゃんと付く。

とあります。

私たちの大半は、セービングス・アカウントやチェックキング・アカウントの残高を気かけ、懐具合を考えながら一日一日を過ごしているのではないかと思います。ところが、銀行の通帳などより、もっとも大切な会計簿が天にあることを認識している人は極めて少ないのではなかとと思います。

日々色々なことが起こります。起こった物事に一喜一憂している私たち人間は、お道の信仰者であっても、ともすれば、「理は見えねど、皆帳面につけてあるのも同じ事、月々々々余れば返やす、足らねば貰う。平均勘定はちゃんと付く」という真理を忘れ、親神様、教祖と直に向き合うことも、そしてご教理を自らの心の定規として判断、解釈することを忘れてしまいがちなのではないかと思います。

実際には2,500ドル分の働きしかしていないのに毎月3,000ドルの給料を貰っている人は、随分得をしたように思っているようですが、その実、天の帳面には500ドルの貰いすぎの赤字になっていて、そのままにしておくと、年に6,000ドルの赤字になってしまいます。通常人は、感謝するどころか、「楽でいい仕事だ。でも、もっと楽になる方法はないかな」などとさらに欲をかき、できるだけ働かずに、できるだけ沢山の給料を貰いたいと考えます。しかし、このような生き方は、天の帳面の赤字をどんどん増やしてゆくだけの人生となります。

お道の信仰者は、「かしの・かりもの」のご教理から日々生かされている喜びを感じ、「はたらくととは、はたはたを楽させることやで」との御教えどおり、自分自身の都合は忘れて、人様に喜んでほしいという思いから、どんな仕事であっても喜び勇んでさせていただく。2,500ドルの給料を貰っている信仰者は、実は3,000ドル分の「はたらき」をしているのかも知れません。であるとすれば、この信仰者は、ちょっと目には500ドルの損をしているように見えるかも知れませんが、これは天の帳面に毎月500ドルの貯金をしていることとなります。

明治21年8月9日のおさしづに、

人間の誠の心の理が人の身を救けるのやで。

とありますし、また、明治23年4月17日のおさしづに、

たすけ一条誠一つの理、誠一つの理は天の理、天の理なれば直ぐと受け取る、直ぐと返えすが一つの理。

明治25年1月14日のおさしづに、

これから先どんな道あると定めて一時に聞き分けるなら、一時に受け取る。どんな処も見えてある。早く定めてくれ。定めてくれれば、どれだけの徳とも分からん。

そして、明治28年3月6日のおさしづには、

不自由の処たんのうするはたんのう。徳を積むという。受け取るという。

とありますように、天の帳面は数字の上での黒字、赤字ではなく、尽くした誠の心、徳の上での黒字、赤字です。心を定めて一時に聞き分けることも徳として受け取っていただけますし、不自由の処たんのうすることも徳として受け取っていただける、と教えていただいています。「たんのう」はいんねんやほこりの清算だけではなく、「不自由の処をたんのう」すれば、それは「徳」として受け取ってくださる、と教えてくださっています。

また、「たすけ一条の誠」は「天の理」であるから、直ぐに受け取り、直ぐに返す、と教えてくださっています。これは、「たすけ一条の誠」というものは、天の帳面の黒字、赤字にはかかわりなく、たとえ天の帳面が赤字である人であっても、人をたすける心の誠というものは、これまでの赤字と相殺されることなく、そのままを受け取ってくださり、そして直ぐに返してくださるんだ、と教えてくださっているのではないかと思います。

さらに、明治24年1月28日のおさしづで、

時いたる種は、神が皆受け取りて居る。受け取りた種は皆生える。

とお教えいただき、また、明治21年12月17日のおさしづでは、

尽したこうのう、落そうにも落されん、捨ようにも捨られん。

とありますように、積んだ徳は、必ず生えてくるものであり、落とそうにも落とせないものだ、とお教えいただいています。

そればかりか、逸話篇第65の「用に使うとて」には、

どんな事するのも、何するも、皆、神様の御用と思つてするのやで。する事、なす事、皆、一粒万倍に受け取るのやで。

とありますし、明治26年12月3日のおさしづには、

まああたゑ／＼、一粒万倍と言う。

とあります。つまり、私たち人間が積んだ徳というものは、人間にはありがちな通帳への記載ミスなどは決してなく、間違いなく天の帳簿に入金され、必ず返して下さるわけですが、ただそれだけではなく、親神様はそれを万倍にして受け取る、とお教えくださっているのです。今日は1ドルの徳しか預金していないはずなのに、家に帰ってから通帳を見たら、1万ドルの入金になっていた、ということなのですね。銀行員がこんなことをしたら、これは大変なミスで、たぶん即刻くびでしょう。

明治26年9月21日のおさしづに、

効能と言うは直ぐに見えるものやない。不思議から不思議が出る。

とあり、また、明治37年4月3日のおさしづに、

何処から見ても不思議が神。

とお教えくださっています。「たすけ一条の誠」は、直ぐに受け取ってくださり、直ぐに返して下さる、と教えてくださっていますが、積んだ徳、尽くした効能は、「直ぐに見えるもの」ではないが、「不思議」

として現れる。この「不思議」が「神」であり、神様からの返しである、と教えてくださっているのではないのでしょうか。

逸話篇第144の「天に届く理」に、

そうそう、どんな辛い事や嫌な事でも、結構と思つてすれば、天に届く理、神様受け取り下さる理は、結構に変えて下さる。なれども、えらい仕事、しんどい仕事を何んぼしても、ああ辛いなあ、ああ嫌やなあ、と、不足不足では、天に届く理は不足になるのやで。

とありますが、ここではどのような仕事なのか、仕事の種類などはまったく話題にしておられません。精神一つの理、つまり、どのような「心」で行ったかが主題であつて、どれほど大きな仕事を成し遂げても、「結構」と思わず、「辛い」とか「嫌だ」とか思いながらしたのでは、それは天の帳面に赤字として記載される、と教えてくださっています。

私たち人間側からは、天の帳面が黒字になっているのか、赤字なのか分かりません。日々頂戴している親神様のご守護や人間関係などを通して、残高の有無を判断するしかありません。「不思議」をお見せいただき、徳をお返しいただいた時には、天の帳面の残高が「ゼロ」になった、と解釈する。たった1ドルの「徳」に対して、1万ドル相当の「不思議」をお見せいただいた。お返しいただいたので、残高はゼロ。しかし、このように、天の帳面の残高がゼロの方はまだよろしいのですが、私などは、親神様から日々頂戴している大恩と、私自身が持ち越している前世、前々世からの「いんねん」を考え合わせれば、私の天の帳面などは真っ赤な赤字であろうと思います。であるにもかかわらず、毎日結構な「不思議」をお見せいただいています。日々常に「徳」を補充することは難しいことかも知れませんが、親神様、教祖の深い親心を考えますと、天の帳面を黒字にしたいとか、黒字にしようとか思うこと自体、むしろ高慢であるのかも知れません。私たち人間がどれほど頑張っても、「万倍」に受け取り、「万倍」に返して下さる親神様の親心にはとうてい追いつかないのです。であるならば、「平均勘定はちゃんと付く」というお言葉は、叱咤激励のお言葉と理解させていただくと同時に、報恩感謝心を思い起こさせて下さるお言葉と取らせていただきたい。少しでも親神様、教祖にお喜びいただきたい、という誠信実の心をもって、報恩感謝の日々を通らせていただきたいと思います。【一瀬常徳】

8 月 月 次 祭 祭 文

これの神床にお鎮まり下さいます親神天理王命の御前にハワイ伝道庁長山中修吾一同を代表して慎んで申し上げます。

親神様には教祖をやしろにこの世の表にお現れ下されて以来、元初まりの真実を明かし、ひながたを示して、陽気ぐらしへの歩み方をお教え下さいました。さらには自由のお働きをもって人々の心の埃を払い、旬々のお仕込みにより成人の道へとお導き下さいます御守護の程はまことに有難く、日々御礼申し上げます、世界たすけの御用に励ませて頂いております。その中にも本日は当伝道庁の8月月次祭の日柄を迎えましたので、只今よりおつとめ奉仕者一同心を合わせ座りづとめ・てをどりを陽気に勇んでつとめ、世界たすけへの真剣な祈りを捧げさせて頂きます。御前には今日を楽しみに寄り集った道の兄弟姉妹が勇んでみかぐらうたを唱和し祈念する状をもご覧下さいまして、親神様にもお勇み下さいますようお願い申し上げます。

この夏もおぢばは、大勢の若者たち子供たちで賑わいましたが、ハワイ管内からも、おやさとセミナー受講生、こどもおぢばがえり団体、少年ひのきしん隊と、ハワイの道の将来を担う者達が厳しい暑さの中一同結構にお連れ通りいただきました。ぢばの理を肌で感じ、ご存命の教祖の親心に直に触れ、御教えを学び、尊き汗を流して伏せ込みに励み、感謝と喜びの心を深めてハワイに戻らせていただきました。誠にありがとうございます。今月30日には、恒例の天理教バザーを開催させていただきます。管内の教友、関係者が一手一つに力を合わせて、この一大行事を成功させ、バザーを通して地域の方々へのをいあげも進めさせていただきますいと存じます。さらにはまた、来月7日に実施予定の全教一斉にをいあげデーに向けて、日々をいあげ・おたすけの意識を持って、周囲に心を配り、一人でも多くの方々に御教えを伝えさせていただきますいと存じます。

私ども一同は、一れつ人間の陽気ぐらしをお望み下さる親神様のお心に添わせて頂き、教祖の道具衆として神一条たすけ一条喜び一条の道をハワイのこの地でしっかりと歩ませて頂きます。一昨日には70回目の終戦記念日を迎えましたが、私たちは、戦時中日米間での忠誠心の葛藤に苦しみながらも「世界たすけ」の教えを信じ守り伝えて下さったハワイの道の先人の苦勞をしのび、終戦後の混乱と虚脱感の中いち早く「復元」を提唱され教祖の教えに真っ直ぐに基づく信仰を叫ばれた二代真柱様とその思いに力強く応えられた先人の足跡を思い起こし、5ヶ月後に迫った教祖

百三十年祭へと向かうこの重要な時旬に、銘々が仕切ったの成人への努力を日々積み重ね、常に周囲に心を配り、自分にできるにをいあげ・おたすけに励み、ご存命の教祖にお喜び頂けるよう努めさせていただきます。

何卒親神様には私共のこの真心をお受け取り下さり、ハワイの道が伸展し、世界中の人々が元の親を知り、一れつ兄弟姉妹の真実に目覚めて、互いにたすけ合い睦み合う陽気ぐらしの世の状へと一日も早く立て替わります様お導きのほどを、一同と共に慎んでお願い申し上げます。

祭 典 役 割

祭 主	山中修吾庁長	
扨 者	齋藤コーリン	久尾マーク
賛 者	桧垣ダニエル	鈴木ダレル
指図方	三國クライド	
講話者	井上メイ	(英)
通訳者	中尾志げみ	(日)

	座りづとめ	前半	後半
てをどり (男性)	庁 長 T. 西村 G. 本田	M. 稲福 M. 久尾 S. 柿谷	K. 川崎 D. 明本 B. 岩田
てをどり (女性)	庁長夫人 M. 柿谷 M. 三國	M. 岩田 K. 齋藤 T. 中尾	S. 中尾 Y. 一瀬 F. 伊藤
笛	Y. 宮内	T. 岩田	D. 桧垣
チャンポン	R. 山	W. 城	D. 鈴木
拍子木	M. 社本	O. 中尾	T. 井上
太鼓	C. 三國	S. 中尾	B. 美馬
すりがね	Y. 中尾	S. 椎葉	S. 社本
小鼓	M. 岩田	T. 一瀬	M. 中尾
琴	C. 美馬	L. 川崎	L. 長田
三味線	T. 松川	Y. 川崎	A. 中川
胡弓	C. 明本	L. 本田	N. 熊本
地方	T. 美馬 E. 高田	C. 齋藤 T. 井上	W. 三國 H. 山本

8月月次祭祭典講話

ハワイ海布教所長 井上・ユック・メイ

皆様、おはようございます。ここにお集まりの皆様とともに、8月の月次祭が陽気に真剣につとめられました。親神様、教祖は今日のおつとめにお喜びのことと思います。再度お礼申し上げます。

1年半ほど前に山中庁長から2015年のどの月かの講話をと、依頼を受けました。その時はもっと年末に近い11月か12月頃と願っていました。でも、どういうわけか今日ここに、皆様の前に立っています。もちろん経験のないことですので、とても緊張していますが、同時に私がこの素晴らしい天理教の教えをどのように知ることになったのかをお話出来ることを光栄に思っています。しばらく、本当に少しの間、話をお聞きいただきますようお願いいたします。

まず、私は井上ユックメイと申します。年をとりましたので、「メイおばさん」と親しみをこめて呼ばれていますが、アンティ・メイと呼ばれることをとても気に入っています。と言いますのはこの白い頭のせいで「メイおばあさん」と呼ばれてもおかしくないと思っているからです。私は1954年香港で生まれ、7人兄弟最年長の私が13歳の時に家族全員でハワイに移り住みました。

幼い頃は、たくさんの宗教に接する機会に恵まれました。色々な宗教を知ることができたことが、後に天理教ののをいがけに大いに役立っています。私は5歳で仏教の小学校に入学、12歳になる直前に卒業しました。家族は貧しく、小学校を卒業すると同時に家族のために朝から晩まで工場で働きました。およそ2年後、家族全員でアメリカへの移住が認められました。

ここホノルルに到着して間もなく、信じていただけたかどうか分かりませんが、聖書に惹かれ、キリスト教を数年勉強しました。18歳の時、アラモアナにあった皆様ご存知のフードランド・スーパーマーケットで働いていました。



その当時は現在のフードコート辺りにあり、広い面積を有していました。そこで後の主人、井上ジョンと出会いました。

私はレジ打ちをしていて、ジョンはバッグボーイでした。いつも私のラインで仕事をしたが、彼は私に好意があると感じていました。そして間もなく、デートを始めました。

ある日、お正月元日でしたが、ジョンは初めてお昼に自宅に連れて行きました。というのは、映画館でのデートやジッピーズで食事するなど、他の楽しみに使うためにお昼代を節約しようという魂胆だったのです。お正月でしたので教会にはたくさんの食べ物がありました。

その時まず驚いたのは、ジョンの家が教会だったことです。なぜなら彼は自分の家が教会であることや、自分の宗教や信仰について何も話したことがなかったからです。でもそんなことよりも、これはとても良い驚きでした。「良い驚き」と言えば、今日、今、この瞬間でも、この素晴らしい教え、天理教と呼ばれる宗教への驚きがまだ続いています。そしてその日が私が天理教という名前を知った最初の日で、天理教信仰の始まりです。この時まで世界に天理教という宗教が存在することも知らないでいました。

ハッピーを目にして、すぐに漢字の意味が分かり、なんて素晴らしいユニークな名前の宗教か

と感じました。天、そして理、理由、真理。仏教学校では、太陽の下で起こる全ての出来事には理由があるということを教わりました。このことをそれまで信じていたことに感謝しています。起こること全てに理由がある「原因と結果」人生において偶然はないということです。

今日ここで私たちが集まっていることも偶然ではないのです。神様が今日ここに私たちを呼び集められたのだと信じます。もし神様に呼ばれたと悟り信じれば、今日ここにお互いに会えたことに喜び、お互いの交友を今日だけでなくいつも楽しむことができます。今日の月次祭だけでなく、ここにいつでも集まりお互いに楽しい時を過ごせばどうでしょうか。

また、なによりも大切なのは毎日、いつもいつも周囲の愛する人たちのことを考えることです。そうすれば、もう少し深く考えて、自分の周りの人の愛情に気がつきます。両親、伴侶、子供、兄弟、友達、同僚。お互いに愛情を持っていつも楽しめば、なんと素晴らしい世界になることでしょう。

ではどうすればこのような心境に達することが出来るのでしょうか。きっと色々な答えがあるでしょう。でも私の答えは、何事も喜んで受け取るということです。ですので、短い講話と約束しましたので、長くは話しませんが、今日は「たんのう」喜んで受け入れることについて少し触れてみたいと思います。

私の人生で、この15年は多くの浮き沈みがありました。浮くよりも沈むことの方が多かったのは確実です。でもこのことに不平を言うつもりはありません。

いいえ、それとは大きくちがいます。私は人生のその時点での自分の過去の通り方を省み、自分に起こった全ての事への神様のご守護、お手引きを感じありがたい「全て良いこと」と考えました。良いことばかり、どうして、とお尋ねになるかもしれませんが、どうして苦しいのに、時には耐え難い時を過ごしていても良いことなのでしょう。

私の経験から言いますと、肉体的、精神的、

心理的にどんなに苦しい目にあっても、生き残るためにはどんなに困難でも面と立ち向かうことでした。起こったことの全てを、人生での出来事や状況を、違った角度から見て考えることにしました。物事を異なった肯定的に見ることも学びました。結局一番大切だったことは「たんのう」の光を、「たんのう」の美しさを、「たんのう」が大切だと毎日の生活に見出すようになったことです。この方法で物事をみると、人生は単純になります。私は、このことを本当に理解しました。

親神様は私たちに何をお望みなのでしょうか。私たちは人生で本当に何を勝ち取りたいのでしょうか。それは幸福、喜び、陽気ぐらし、この全てでしょうか？また、良い「よふぼく」になるように努力し、成し遂げる幸せと喜びを考えましょう。そうです、私たちは皆幸せになる必要があります。幸せでいることが肝心です。でもどうすれば、いつも幸せでいられるのでしょうか。その答えが「たんのう」すなわち喜んで受け取るにあります。

常にたんのうを実践すれば（それを第二の天性にすれば）全てを喜んで受け取るよう学び、この世にうらみも、人への悪意もなくなり、人との摩擦もありません。他人への敵意も反感もありません。憤慨も、嫌悪も、特にいつも周りにいるお互いへの憎しみもありません。もっと大切なのは、特に、私たちの愛する人たち、そして私たちを愛してくれている人たちを絶対に傷つけたり、危害を加えたり、不幸せにしたくはないということです。もう少し深く、もし皆が幸せならどんなに素晴らしい世界となるかが想像できます。

そしてその上に大切なのは、親神様、教祖に喜んでいただくなくてはならないということです。もし親神様がお喜びなら、世界は今よりはもっと素晴らしく美しくなります。本当に良いことです。

そして皆でこの幸せの思考を続け、少しずつ増やしていけば、親神様にお喜びいただけます。教祖にもお喜びいただけます。愛する家族

を幸せにします。そして毎日周りの人々を幸せにします。そうすればどうなるでしょうか。そうです、私たち自身が幸せになります。自分自身が幸せなのは、とても大切なことで利己主義ではないのです。どうしてこれが大切なのでしょうか。幸せの心は幸せの人生となり、そして本当の喜びと幸福を他人と分かち合います。

そして、さらにもう一つ大切なことは、喜びと幸せは自らの身体の機能を良くし、病気、不快を遠ざけるといことです。自分の心が平静になり、本当の喜び、陽気ぐらしとなるのです。なんと素晴らしい生き方でしょう。

有名な女優、オードリー・ヘップバーンは、

愛らしい瞳のためには、人々の素晴らしさを見つづけること。魅力的な唇のためには、優しい言葉を紡ぐこと。美しい身のこなしのためには、決して一人で歩むことがないと知ること、と言い残しています。

オードリーの最後の格言を私流に訳して、人は決して一人ではない。なぜなら、私たちがどこにしようが、何をしようが、親神様がいつもそばにおられます。私、井上ユックメイは、皆様がどのようにお過ごしでも、常に皆様の幸福を心から祈っています。ここに集まりいただき、またご清聴いただき誠にありがとうございました。

婦人会だより

たすけあいと感謝の心を写し出す天理教バザー。今年も大勢の方々のひのきしん本当にありがとうございました。7日のをいがけデーも大勢の方々のご参加をお待ちしています。

■ヌアヌハレ慰問

9月12日(土) 9:30

■例会

9月14日(月) 9:00

■女鳴物練習

9月15日(火) 9:00

■母親講座

9月22日(火) 10:00 - 12:30

※今月の月次祭直会当番は、合同Cグループです。よろしくお祈りします。

少年会だより

夏のこどもおぢばがえりには、おやさと練成会受講生も参加してくれました。後期受講生の4名は、無事にさづけの理を拝戴されました。おめでとうございます。また、バザーのゲームブースをお手伝い頂いた皆様ありがとうございました。

9月行事予定

- 1日(火)・月例コミュニティーひのきしん
- 2日(水)・上村舞部員帰国
- 4日(金)・Adopt A Hwy清掃ひのきしん
- 7日(月)・全教一斉にをいがけデー
- 8日(火)・天理文化センター月次祭
・婦人会委員会
- 12日(土)・婦人会ヌアヌハレ慰問
- 14日(月)・婦人会例会
・TCC&文庫ジョイント委員会
- 15日(火)・婦人会女鳴物練習
- 16日(水)・青年会会議
- 17日(木)・少年会会議
- 19日(土)・主事会
・学生会ひのきしん
- 20日(日)・伝道庁月次祭
・サンデースクール
・教会長布教所長会議
・おやさと練成会中期会議
・アロハバンド練習
- 22日(火)・母親講座
- 25日(金)・青年会教祖傳勉強会
- 26日(土)・遙拝式
・バザーブースヘッド反省会
- 27日(日)・秋季霊祭

TENRIKYO HAWAII DENDOCHO

2920 Pali Highway Honolulu, HI 96817

Phone : (808)595-6523 Fax : (808)595-7748

E-mail : dendocho@tenrikyo-hawaii.com

感謝、慎み、たすけあい

陽気ぐらしのキーワード

秋季霊祭のお知らせ

9月27日（日）午前10時より、伝道庁にて秋季霊祭が執り行われます。霊祭に引き続き以下の方々の年祭も執り行われます。

5年祭	佐藤カーレン	伝道庁	よふぼく
10年祭	本郷謙次	名東	アレキサンダー初代布教所長
30年祭	小笠原キサヨ	本島	カイクキ教会二代会長

伝道庁 9月月次祭

9月20(日)午前9時

講話者：岩田もと子・ホノルル港教会長夫人

※教会長・布教所長会議は12時45分から行います。